

イエスは会堂に入って

マルコ 1 : 21 - 28



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021 年 1 月 31 日

顕現後第 4 主日

彦根聖愛教会にて

今聞いた福音書の話は何でしょうか。カファルナウムの町の会堂で、礼拝中に起こった事件です。カファルナウムはガリラヤ湖北岸の町で、主イエスはその働きの中心の場所とされたところではあります。

イエスはしばしば戸外で、野外で説教されました。けれども同時に土曜日の安息日ごとに会堂（今で言えば礼拝堂）の礼拝に参加して、しばしば説教されました。イエスさまのおよそ3年の活動の間に、もっともたくさん説教された会堂といえば、このカファルナウムの会堂です。そのおそらく最初の礼拝説教が今日の聖書の箇所なのです。

そのカファルナウムでの礼拝説教において何が起こったか。説教妨害です。ひとりの男が立ち上がって叫び、イエスの説教をやめさせようとしてしました。

本文の最初を読んでみましょう。

「一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。」マルコ 1:21

ここは「カファルナウムに着いた」となっていますが、ギリシア語原文を見ると、カファルナウムに「入って来られる」と書いてあります。そしてその続きに、「会堂に入って」とあります。イエスはこのカファルナウムの町に入って来られ、さらにこの会堂に入って来られました。2段階です。町の中に、そして

会堂、礼拝する人々の中にイエスは入って来られました。さらにイエスが入って来られる第3段階がありますが、それは後で確認しましょう。

「人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。」1:22

人々はイエスの話に非常に驚きました「律法学者のようにではなく」。律法学者はどのように教えるのでしょうか。それはおそらく、聖書の知識を教えてくれる、あるいは律法——信仰的なあり方や教訓を示すものだったのでしょうか。しかしそれで神さまがわかるか。律法学者は神と神の律法を教えている。しかしそれで生きた神さまを感じるかというと、そうとは言えません。生きた神さまを伝えてくれず、こわばった教訓しか聞かせてくれないのです。

しかし今日のイエスの話は違いました。イエスをとおして神の声が聞こえるのです。わたしたちを愛してわたしたちに呼びかけておられる神。わたしたちを間違った道から呼び戻そうとされる神。わたしたちを励まし生かそうとされる愛の神、いのちの神、生きておられる神と出会っている気がする。いや、事実イエスはそれを経験させてくれているのです。

会堂の多くの人々が引き込まれ、驚嘆し、感動していました。

そのとき、突然叫ぶ声がしました。

「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」1:24

ひとりの男が反感と憎しみをあらわにして、立ち上がってイエスをにらみつけています。イエスの話を聞きたくないのです。

「汚れた霊に取りつかれた男」(1:23)と書かれています。

「かまわないでくれ」と訳されているところは、原文に近い言葉にすると「われわれとあんたは何の関係があるか！」です。イエスにここから出て行ってもらいたい。しかし出て行くべきなのはイエスではなく、この人に取りついている汚れた霊です。

「イエスが、『黙れ。この人から出て行け』とお叱りになると、汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。」1:25-26

何が起こったのでしょうか。一人の人の癒しです。回復です。また回心です。

先ほど申しました。イエスはカファルナウムの町に入ってこられ、次にこの会堂に入って来られた。この二つに続く第3段階がここで起こりました。イエスがこの人の中に入って来られた。

イエスが語り初めてから5分、10分。イエスの声がこの人に触れていきます。この人の心の中に入って行きます。イエスの

声と言葉が、この人に影響を及ぼします。それはこの人のありようを浮き彫りにし、魂の深いところにある歪んだもの、汚いものに触れてくるものでした。長年この人を悪しき力が捕らえ、支配してきた。その悪しき力が暴き出される事態となったのです。もうこれ以上は耐えられない。彼が叫びます。否、彼というより、彼を占領している悪しきもの——汚れた霊が叫びます。

「我々を滅ぼしに来たのか。」

「我々」と複数で言っていますから、取りついているのは複数の強力な霊なのでしょう。

イエスは、この人を憎まれたのではありません。逆です。この人を愛された。この人が神の愛によって新しく生かされて生きることを願われました。そのゆえに、この人の中に巣くいこの人を支配している悪しきもの、汚れた霊に向かって言われました。

「黙れ。この人から出て行け。」

「この人よ、出て行け」ではありません。「この人から出て行け」です。

ものすごい抵抗をしながらその悪しきものは出て行きました。悪しきものに代わって、神さまの良きものが彼のうちに宿りました。汚れた霊は出て行き、清い霊が彼のうちに宿りました。

別の言い方をすれば、カファルナウムに入って来られ、会堂に入って来られたイエスは、この人の心の中に入ってくださったのです。

わたしたちを愛し、わたしたちを救おうとされるイエス。カファルナウムに入って来られたイエスは、今この町に入って来られます。会堂に入られたイエスは、わたしたちのこの礼拝堂の中に、礼拝するわたしたちの中に入って来られます。そしてわたしたちに語りかけられます。

ひょっとしたらわたしたちも、あのカファルナウムの会堂で叫んだ男ほどではないにしても、同じようなものを自分の内側に持っているかもしれません。美しくないもの、頑なにものがわたしたちの中に潜んでいて、わたしの願いに反してイエスに反抗するかもしれません。

しかしそのようなわたしたちをイエスは愛しておられます。イエスがわたしの心に触れてくださいます。この礼拝の中で主イエスはわたしたちの中に入り、悪しきものを追い出し、わたしたちを内側から新しく生かそうとされます。み言葉と聖餐によってそれをしてくださいます。

祈ります。

主イエスさま、わたしたちのところに、わたしたちの内に入りください。わたしたちの中の悪しきものを追放してください。あなたがわたしたちのうちに宿ってください。あなたがわたしたちを愛していてくださるように、わたしたちもあなたを愛するようになしてください。あなたがわたしたちとともに生きて歩んでください。それがわたしたちの望み、わたしたちの喜びであり祝福です。アーメン